

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和6年4月1日

事業所名 このひかり 赤野校

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	4	2	1		活動によりスペース不足を感じられる時があるため、配置や活動内容等を工夫してスペースの確保に努める。
	2	職員の配置数は適切である	7				
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	4	3			必要に応じて対応していく
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	5	2		ミーティングを通して情報を共有する機会を設け、記録に残し確認できるようにしている。	ミーティングで職員が意見を取り入れて記録などを振り返る習慣をつけていく
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	4	3			アンケートを実施し、職員と共有して業務改善していく。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	7				会報等で情報を公開している。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	3	2	2		今後は実施を検討し、評価結果を業務改善に繋げていきたい。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	6	1		月1回開催したり、必要に応じて開催している。	職員に積極的に参加してもらったり、事業所の連携ツール上手く活用して研修の質を高めるていく。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	7			日々の支援から利用者の課題を分析し、支援会議等で情報共有している。	職員間で共有して、作成していく
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	6	1		事業所で導入している情報ツールを活用して使用している	職員間で共有する。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	6	1		ミーティングしながら行って立案している。	職員間で共有する。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	7			日々、工夫しながら取り組んでいる。	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	5	2		普段では出来ない活動を取り入れている。	今後は地域の活動に参加していく。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成している	6		1	日々のプログラム内に個別・集団活動を取り入れている。	令和6年度は、専門的支援職員にて、計画的な個別・小集団活動を実施する。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	6	1		就業時にミーティングを行い、支援内容の確認や情報共有を図っている。	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	6	1		出勤後にミーティングを行い、支援内容の振り返りや利用者の様子などの情報を共有している。	記録を残して、参加できていない職員も共有していく。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	6	1		支援記録を記入し、支援方法の検証・改善に繋げている。	
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	7				
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせて支援を行っている	7				

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	5	2		担当者会議前には職員全体でミーティングを行い、利用者の情報共有を行っている。	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	6	1		学校や自宅への送迎時に情報交換を行っている。	学校によって情報共有等が図りづらいこともあるため、今後はスムーズな連携体制が取れるように工夫が必要である。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている		7		現在該当者なし。	必要に応じて連携を図るようにする。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	5	2		相談員や保護者、児童発達支援事業所からの情報を共有している。	必要であれば会議にも参加できるようにする。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	4	3		現在該当者なし。	利用者の記録は保管されているため、対応は可能である。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	4	3			利用者の変化に気付いた際など、すぐに連携を図り情報共有を行う体制を整える。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	4	1	2		今後検討していく
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している		5	2		開催する予定があれば参加していきたい。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	6	1		主に連絡ツールや送迎時に情報交換を行っている。	必要に応じて関係機関と連携を図り、会議等を行うようにする。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレンツ・トレーニング等の支援を行っている	4	3			職員でも研修を行い、保護者と共に支援について考える機会を設ける。
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	7				
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	5	2		保護者と情報を共有し、支援を行っている。	必要や要望に応じて、関係機関と連携を図り、状況によっては面談の場を設けるようにする。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	1	5	1	今年度は1回開催した。	年に2回、開催できる機会を設けていく。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	7				
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	6	1		連絡ツール等を通して発信している。	連絡ツールを使用していない保護者には、文書等で行事予定を発信しているが、今後は活動内容も発行していきたい。
	35	個人情報に十分注意している	7				
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	7				
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	7				

チェック項目		はい	どちらともいえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
非常時等の対応	38 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	7			救急用のバックを準備している。	職員にはマニュアルの保管場所や使用方法を、保護者にはマニュアルを配布する等周知を行う。
	39 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	7				
	40 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	7				
	41 どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	7				
	42 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	4	3			保護者と連携を取りながら情報を共有していく。
	43 ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	4	2	1	ミーティング等で情報を共有している。	今後はヒヤリハット事例集の作成を行う。